

火山防災に係る調査企画委員会（第8回）

議 事 要 旨

1. 日 時

令和4年3月16日（水）13:00～14:35

2. 出席者

西村座長、青山、市原、笠井、竹内、田中、前野、矢崎、荒竹、井上（代理）、草野、加藤各委員 他

3. 議 題

- (1) 令和4年度予算案における火山防災対策関係予算
- (2) 関係機関の施策・研究の連携のための令和5年度概算要求に向けた進め方
- (3) 最近の火山防災対策の取組状況
- (4) 施策・研究の方向性のとりまとめに向けた意見交換
・「観測」

4. 議事要旨

- 行政委員及び事務局（内閣府）から、令和4年度予算案における火山防災対策関係予算や最近の火山防災対策の取組状況について説明し、情報共有を図った。
- 事務局（内閣府）から、令和5年度概算要求に向けた進め方について、説明を行った。
- 事務局（内閣府）から、「観測」に資する施策・研究の方向性（報告案）について説明し、とりまとめに向けた意見交換を行った。
- 各委員より頂いた主な意見は下記のとおり。

<最近の火山防災対策の取組状況>

- 過去の噴火時の社会的影響を基にして、将来の噴火時の経済被害を想定することが重要ではないか。
- 住民向けの情報提供に関して、住民等も含めた情報伝達訓練の実施も重要ではないか。

<「観測」に資する施策・研究の方向性のとりまとめに向けた意見交換>

- 火山体内部状態を踏まえた有効な観測点の項目・配置計画の検討手法の構築は、既存

の観測点における問題点を把握した上で議論することが必要。

- 噴火の前兆現象があった場合などに速やかに観測体制を構築できるように、観測に関わる機関の目的や手法等も踏まえてあらかじめ議論しておくことが重要。
- 観測体制の充実については、観測点の配置計画の検討に加え、平常時・火山活動活発時の観測体制や観測技術を運用する体制についても検討しておくことが重要。
- ドローンを活用した危険個所における観測については、低廉で量産可能な観測機器の開発も有効。

以 上